事例研究報告

小学部低学年児童における Keynoteを用いたスケジュールを見て 活動に取り組むための指導

児童・生徒の実態

・小学部１年生　知的障がい
・発達年齢 ２歳６ヶ月

・２語文程度の言葉のやり取りができる。

・注意が多方面に向いて活動が止まったり次の活動を
　忘れてしまったりすることが頻繁にある。

・「イヤ」と言って朝の活動を拒否することがある。

保護者の願い

・自分で着替えができるようになってほしい。
・順番を守れるようになってほしい。

教員の願い

・スケジュールから逸脱せずに活動に取り組むことができるようになってほしい。
・見通しを持って活動できるようになってほしい。

アドバイザーからの助言

①朝の活動のスケジュールを限定する。
②活動ができたらトークン(好きなキャラクターのカードやシールなど)を渡す。
③スケジュールの最後に強化子を設定する。

以上の助言を受けて，AI-PAC基本俯瞰図における項目「学習基盤（自己統制）」の「トークン（DTT）」を基に指導を行った。

記録方法

できた：朝の活動[1]で全く逸脱[2]をせず活動することができた。

できなかった：朝の活動[1]で１回でも逸脱[2]があった。
または，逸脱はないが支援(身体的P)を
要した [3]。

[1] 「かばん」「体温計」「連絡帳」「水筒」「タオル袋」「タオル」の６つのスケジュール項目をまとめて《朝の活動》とした。

[2] 活動の拒否や活動エリア外への移動を《逸脱》と判定した。

[3] 「活動の意思はあるが，ファスナーが噛んで開かない」等の物的・能力的な要因で支援を要した状況を《逸脱はないが支援(身体的P)を要した》と判定した。

指導目標

朝の活動において，スケジュールから逸脱せずに活動に取り組むことができる。

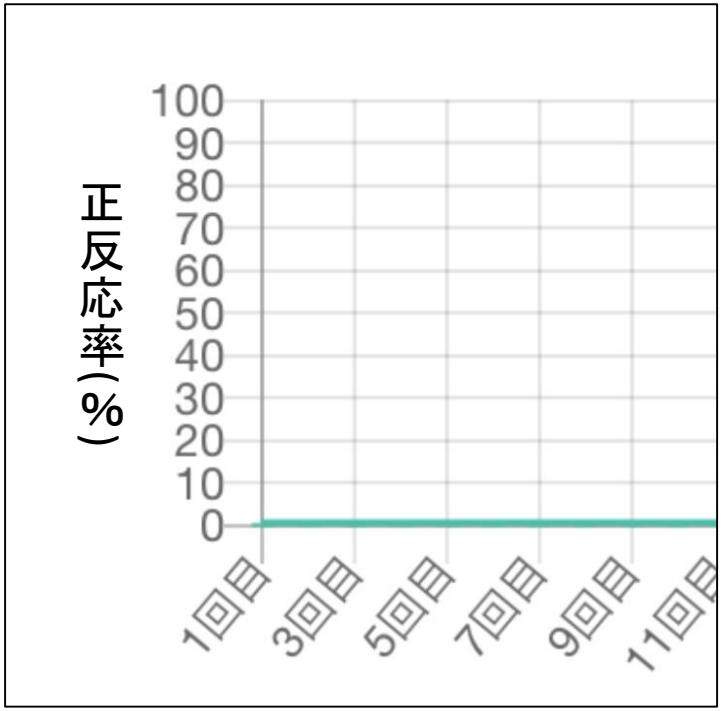
指導の手続きⅠ(１回～10回目)

①**朝の活動**(**「かばん」「体温計」「連絡帳」「水筒」「タオル袋」「タオル」「遊び」**)の写真カードをスケジュールボードに１枚提示する。

②カードの活動内容を達成することができたら，**トークンのキャラクターカード**を教員がボードに貼り付ける。

③上記の手順を繰り返していき，すべて達成したら**強化子のオモチャ**を手渡す。

結果：指導1～10回目



指導開始（1回目）から「かばん」「体温計」「連絡帳」「水筒」「タオル袋」「タオル」の殆どの活動で逸脱が見られた。逸脱行動としては，朝の活動エリアから出ていき，遊びエリアで寝転がる・イヤと言うことが多かった。

指導の問題点としては，トークンの理解が本児にはまだ難しいこと，強化子がやや弱いこと等を疑った。

指導目標

朝の活動において，スケジュールから逸脱せずに活動に取り組むことができる。

指導の手続きⅡ(指導11回目以降)

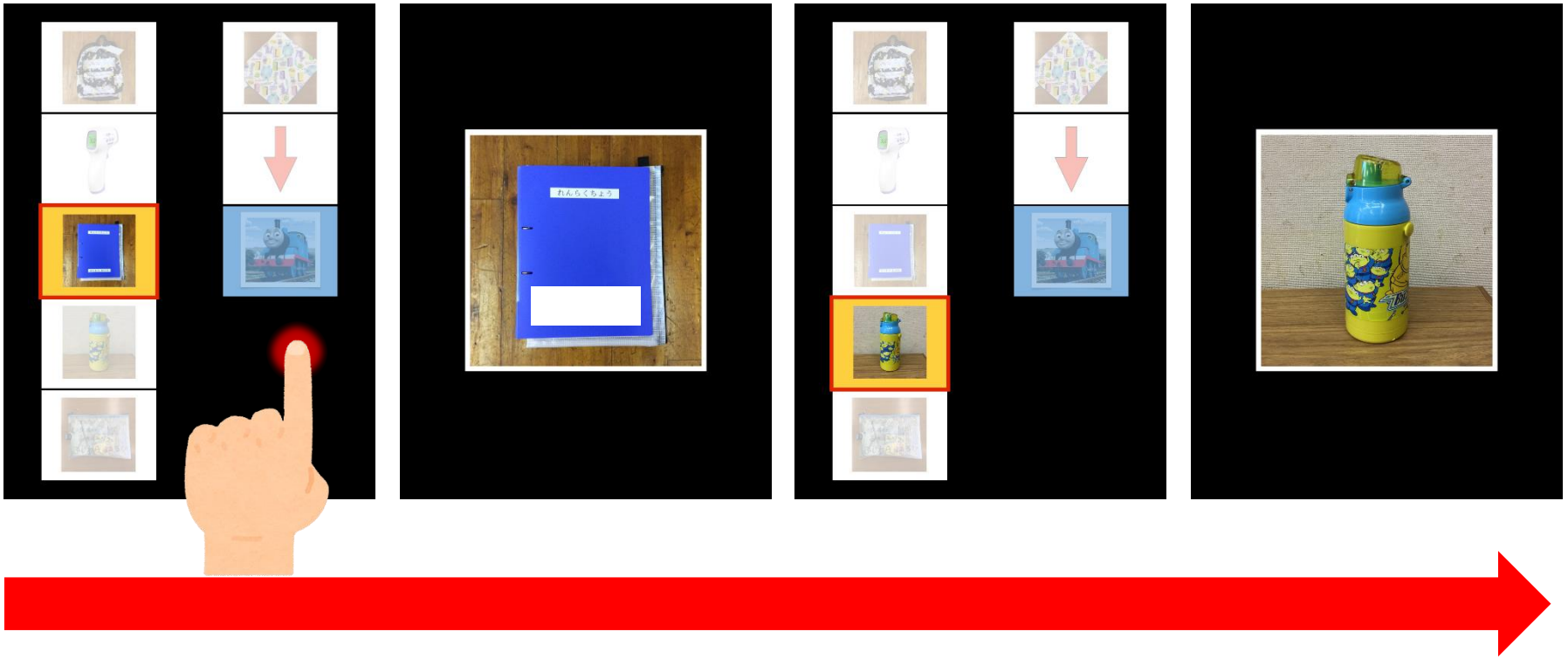
①朝の活動(「かばん」「体温計」「連絡帳」「水筒」「タオル袋」「タオル」「遊び」)の一連の流れを写真で示したスケジュールを**タブレット画面に提示**し，見通しを持たせる。

②次に取り組む活動を画面に提示して，活動を一緒に確認する。

③この手順を繰り返していき，すべて達成したら**強化子であるタブレット端末(動画視聴)**を手渡す。

環境設定(朝の活動エリア)

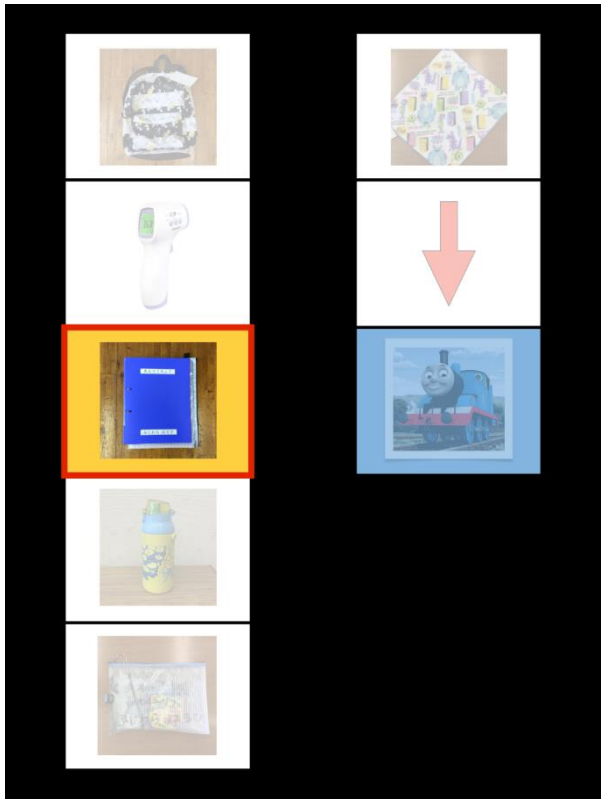
環境設定（提示の手順とねらい）



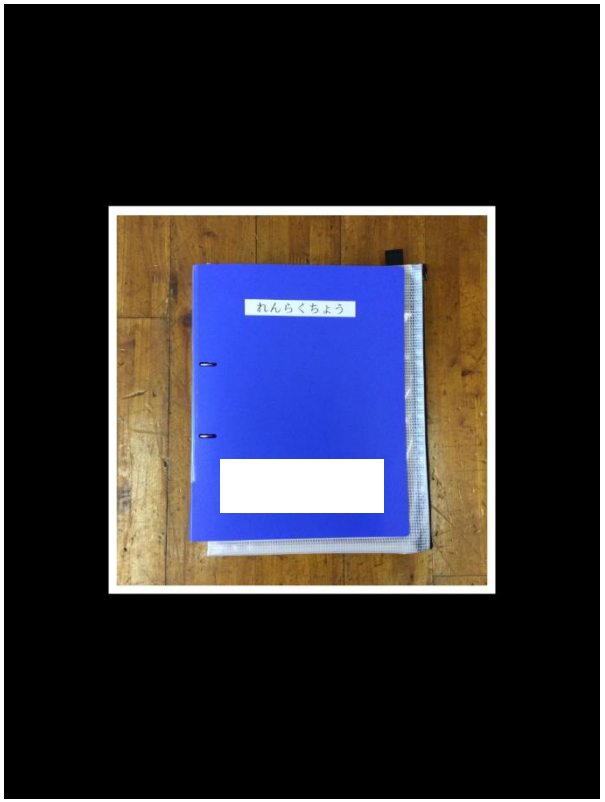
①スケジュール全体提示：強化子までの見通しを持たせる
②（タップして**全体提示画面**から**個別提示画面**へ切り替え）
③スケジュール個別提示：標的とする活動の確認

上記の手順を「かばん」から「遊び」まで繰り返す。

環境設定(全体提示／個別提示画面)

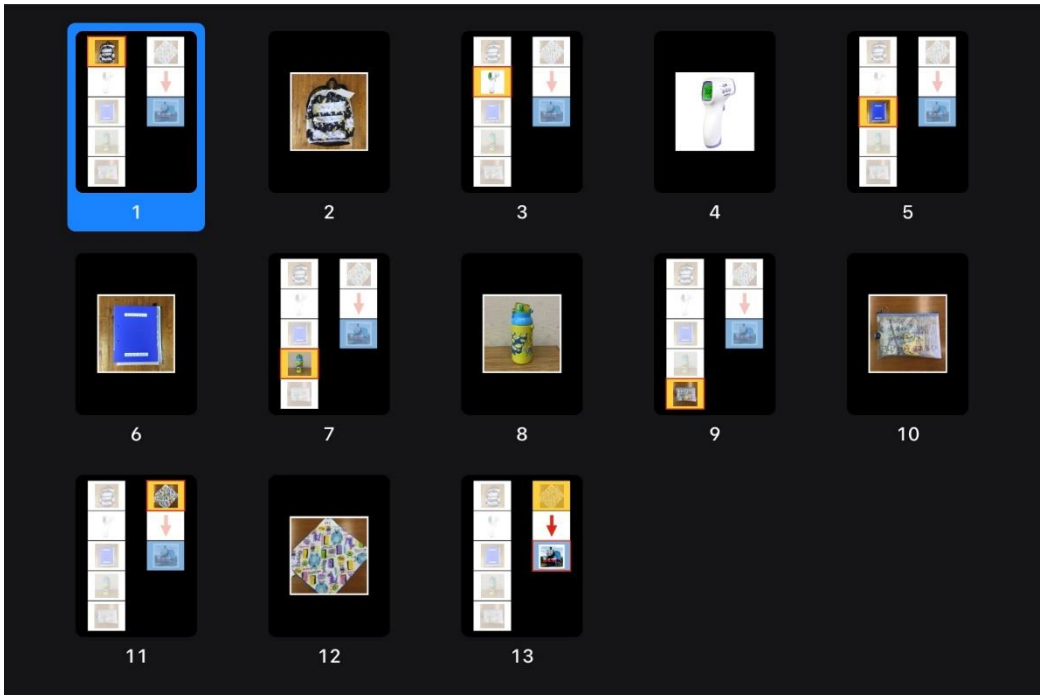


次の活動のカードを赤枠・オレンジ背景に設定。それ以外のカードは不透明度を30%に設定して，白くぼかしている。



背景色はデフォルトの白色ではなく，**黒色**に設定。写真に注目しやすくなった。

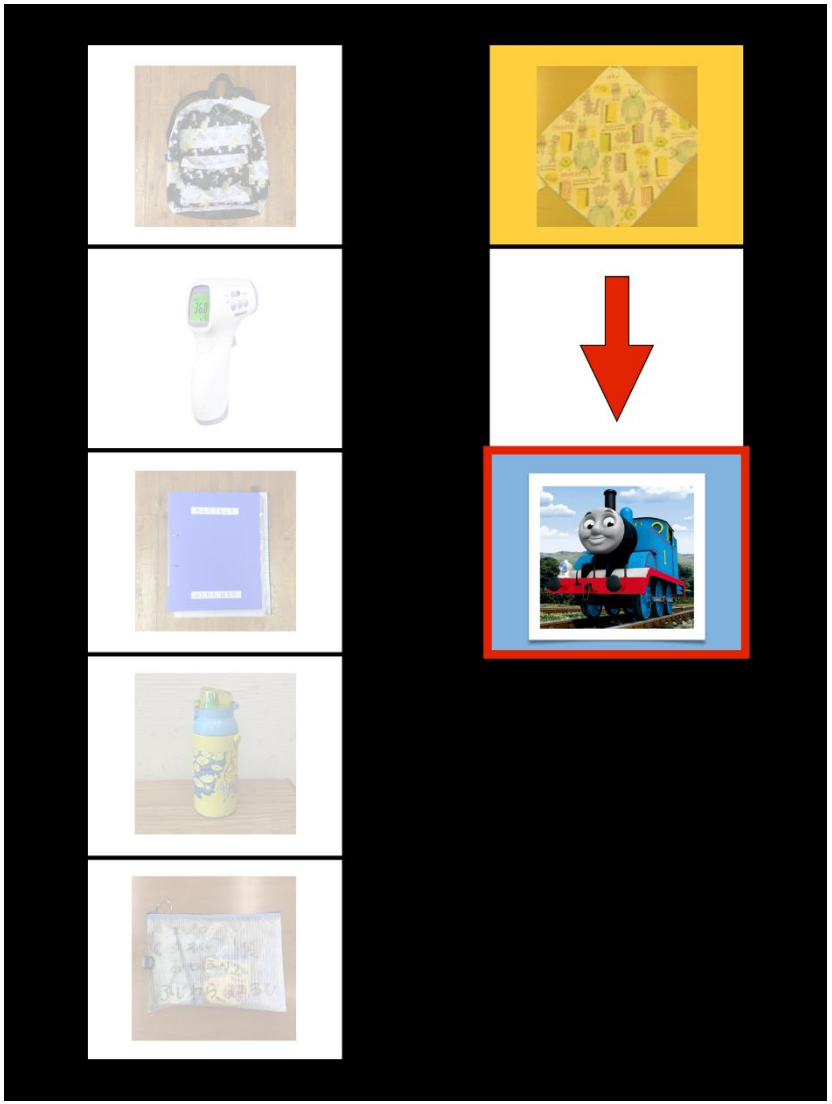
環境設定（使用したアプリ）



アプリ：Keynote
Appleが開発しているプレゼンテーションソフトウェア

今回は13枚のスライドを使用した。アニメーションは使用せず，
単純なスライドの切り替えのみでスケジュールを提示した。

環境設定(強化子)



記録と環境：指導１１回目以降

指導１１回目以降からは徐々に逸脱が減少していった。本児は，指導以前からタブレット端末に興味を持っており，これまで注目することが難しかったスケジュールをよく見るようになった。また，強化子を動画視聴に変更したこともあり，指導後半は殆ど逸脱もなく，０%の軸は「逸脱なし・身体的Pあり」の判定が多い。

指導の成果

・朝の活動に慣れてきたため，１月16日より試験的に**スケジュールを**タブレット画面からカード提示に戻し，**強化子を**動画視聴からオモチャに戻しているが，逸脱せずに活動に取り組むことができた。

・遊びまでの活動に**「連絡帳のシール貼り」「着替え」を追加**しても逸脱せずに活動することができた。

考察と反省点

・活動量を限定したことで無理なくスモールステップで取り組むことができたのではないかと思われる。また，本児の関心が強いタブレット機器を使用(スケジュール，強化子の動画視聴)したことが，活動の動機付けに繋がったのではないかと思われる。

・「かばん」「体温計」「連絡帳」「水筒」「タオル袋」「タオル」をそれぞれ6つの活動で区切って成否の記録を取っていれば更に詳細なデータとなっていた。また，逸脱の回数や状況を今回は記録していなかったため，次回の指導への反省点として取り上げたい。